

# パラメーター

---

パラメーターについてのビデオをご覧くださいありがとうございます。付属の練習ワークブックをダウンロードして、実際に Tableau を操作してみてください。

## パラメーターとは

[パラメーター] を使うことでワークブックのインタラクティブ性と柔軟性が増します。[パラメーター] は、エンドユーザーが値を調整できる計算式での変数としてとらえられます。パラメーターコントロールは、ここでは「配送料のカットオフ値」とありますが、「出荷モード」のような [フィルター] と混同される場合があります。[フィルター] は、指定された [出荷モード] のデータのみを表示するなど、ビューに表示されるデータを絞り込むものです。これに対してパラメーターは、[色] にある計算フィールドに参照値を与えるなど、ある結果をその他の要素に提供するものです。

## パラメーターを使用する

パラメーターの役割は、変数の値の調整にすぎないため、値がフィルター、セット、リファレンスライン、計算フィールドなど他の要素に組み込まれているときだけ有効となります。この単独パラメーターを変更しても影響はありません。このパラメーターはどこにも関連付けられていないため、ワイヤーの付いていない目盛りを調整しているようなものです。

## フィルターとパラメーター

パラメーターはフィルターとは異なるものですが、パラメーターをフィルターの中で使うことは可能です。売上上位 10 名の顧客が表示されています。しかし、パラメーターを使うことで、エンドユーザーが上位何位までの顧客が表示されるかを定めることができます。[顧客 ID] を右クリックし、[フィルターの編集] を選択します。これで、[フィルター] の設定を変更することができます。[上位] タブをクリックすると、元の設定では上位 10 位となっていることがわかります。「10」と表示されているボックスのドロップダウンメニューをクリックし、[新しいパラメーターの作成] を選択します。既存のパラメーターである [配送料のカットオフ値] も表示されています。パラメーターは、そのワークブック内のどこでも使用でき、複数の場所で使用することができます。ここでは新しいパラメーターを作成します。「上位 N」という名前を付け、最大値を「10」とし、[OK] をクリックします。パラメーターコントロールは自動的にビューに表示されます。これで、ビューに表示される顧客数を調整できます。

## パラメーターとセット

パラメーターを、セットの定義で使うこともできます。こちらのデータセットをご覧ください。[上位 N] のフィルターを使用せずに、上位 N のセットを作成することもできます。[製品] を右クリックし、[作成]、[セット] の順に選択して、「上位製品」という名前を付けます。[上位] タブをクリックします。先ほどと同じように、[フィールドごと] を選択し、「10」の隣のドロップダウンをクリックし、[上位 N] パラメーターを選択します。[上位製品] を [色] にドラッグします。今回は、パラメーターコントロールは自動的ににはビューに表示されないため、[上位 N] パラメーターを右クリックし、[パラメーターコントロールの表示] を選択します。

## パラメーターの計算フィールド

最初に表示されていた「配送料のカットオフ値」に関するビューでは、計算フィールドでパラメーターを使いました。[配送料の色] を右クリックし、[編集] を選択すると、計算式を確認し、編集することができます。単純な IF ステートメントが使用されています。平均配送料がカットオフ値よりも多い場合の注文を「高」とします。そうでない場合は「低」とします。これで、パラメーターをビューに対応付けることができました。この計算を [色] などに使用すると、パラメーターコントロールによってビューが変化します。

## リファレンスラインとパラメーター

パラメーターが変更されると、このリファレンスラインは [色] とともに自動的に移動します。リファレンスラインをもう一度作成し、どのようにパラメーターを活用できるかを見てみましょう。[アナリティクス] タブをクリックします。[リファレンスライン] を [配送料] にドラッグします。[値] については、ドロップダウンをクリックすると関連するパラメーターが表示されるので、[配送料のカットオフ値] を選択します。[ラベル] を [値] に変更します。これで、パラメーターの設定に応じてリファレンスラインが表示されるようになりました。

## パラメーターのタイプ

これまでの例では、全て数値パラメーターを取り上げてきました。しかし、パラメーターはさまざまなデータタイプに適用されます。[データ] ペインで右クリックして、[パラメーターの作成] を選択します。データタイプのオプションは、浮動（小数点）、整数、文字列（テキスト）、ブール型（True/False）、日付、日付と時刻を含みます。選択されたデータタイプによって、パラメーターが使われる箇所と使用できる表示形式が異なります。ここでの「単独パラメーター」は日付であり、そのため数値を設定するドロップダウンには表示されませんでした。

## まとめ

パラメーターのトレーニングビデオを視聴いただき、ありがとうございます。Tableau の使用方法について、引き続き無料のトレーニングビデオをご覧ください。